

# 平成 30 年度 事業報告書



社会福祉法人 **素心会**

## 目次

1	法人	
	(1) 法人の主な活動状況	・・・・・・・・ 1
	(2) 重点事項への取組み	・・・・・・・・ 1
	(3) 素心デイセンター災害復旧工事経過報告	・・・・・・・・ 2
	(4) 委員会活動状況	・・・・・・・・ 3
2	各拠点	
	(1) 素心学院	・・・・・・・・ 9
	(2) 素心デイセンター	・・・・・・・・ 9
	(3) 地域支援センターそしん	・・・・・・・・ 10

## 1 法人

### (1) 法人の主な活動状況

平成30年度は、素心学院、素心デイセンター、地域支援センターそしんの三拠点を構え、透明・安定かつ自主自立した経営に取り組んだ年度であった。

昨年度末、素心デイセンターでは土砂災害が発生した。安全対策を施し注意深く利用者支援を継続し復旧工事計画を進めた。調査・設計に時間がかかったものの、間もなく改修工事着工となった。その他大きな事故の発生は無く、一年間安全に各事業を運営することができた。事業活動収支においては、会計処理及び給与支払い日の変更による支出増（13か月分）及び災害復旧工事に関する支出増と、通常発生しない大きな支出があったが、厳しいながらも各拠点の自立した経営について見通しが持てる収支状況となった。

一方、素心学院及びさざんかホーム、素心デイセンター就労継続支援B型事業における利用者の高齢化・退所率の高まり、稼働率の低下が問題として明確に浮かび上がった。このことは社会状況、制度の動向等をふまえると、さらなるサービスの質的向上なしには解消しにくいものと考えられ、そのためには職員確保、人材育成、法令順守、地域連携、公益的な取組、老朽化設備改修等にまんべんなく取り組むことが不可欠と言える。社会福祉法人としての使命を追求しより魅力ある法人づくりへ向け、社会福祉法人素心会中期計画を作成した。

### (2) 重点事項への取り組み

重点課題		実施（完了）事項	継続 終了
権利擁護、支援内容の充実、安全・健康管理の一層の強化		各拠点にて報告	継続
経営基盤の安定、強化	各事業における稼働率の維持	各拠点にて報告	継続
	人材確保 広報活動の強化 職員・関係者の積極的な情報共有と交流	パンフレットの新規作成 後援会との連携 (会員増へリーフレットの作成)	継続
	防災対策の強化 大雨大雪土砂災害ガイドラインの作成	案作成済（最終調整）	継続
	防災備品リスト、ライフライン確保マニュアルに沿った備蓄食料の入れ替え・防災用品等の補充	備蓄食料の入れ替え・防災用品等の補充	終了
	法令順守と安全推進の強化 法令順守と安全推進強化月間の取り組み	啓発ポスターの作成（7種）	継続
建物等の修繕に関する中期計画の策定		総合的な中期計画の作成	継続
素心デイセンターの見直し	作業棟整備後の計画に基づく有効利用	自閉症者への構造化支援 (活動室改修)	継続

	就労継続支援 B 型事業の充実	災害のため中期計画にて	継続
	日中活動の充実	災害のため中期計画にて	継続
グループホームの再整備計画の策定		65 歳問題により、中期計画にて	継続
地域支援センターそしんにおける事業の安定・充実 a 特に新規事業（児童発達支援・生活介護事業）及び大磯町・二宮町から受託の基幹型相談支援事業		拠点の事業報告にて	終了
社会福祉充実計画への取り組み（具体的な地域貢献事業への取り組み）		非該当	継続

### （3）素心デイセンター災害復旧（擁壁・グラウンド等改修）工事経過報告

#### ア災害状況

平成 30 年 3 月 9 日（金曜日）早朝、デイセンター北側斜面（神奈川県中郡大磯町虫窪 23 番地（素心会所有））が 30m にわたり崩落した。その土砂の重みにより擁壁に亀裂が入り押し出され、土砂の一部がグラウンドに流れ込んだ。

#### イ原因

- ①3 月 9 日未明の大雨（100 mm 超）
- ②経年劣化による北側斜面吹付コンクリートの浸食
- ③北側擁壁雨水排水の詰まり
- ④グラウンドの雨水排水処理（特に素心学院移転後、状況が変化していた）

#### ウ被害

- ①北側斜面崩落
- ②北側擁壁の亀裂、ずれ
- ③送迎用マイクロバス 1 台の後部ガラス破損（落石による）
- ④グラウンドへの土砂流出
- ⑤人的被害及び建物被害はない

#### エ設計事務所

早期の復旧を図るためには、調査、行政手続き等に着手する必要があるとあり、実績のある黒部設計事務所に本工事に関する調査、設計、行政手続き、工事監理等を依頼した。

#### オ平成 30 年度対応

- ①安全対策（立ち入り禁止エリア・建物の設定）
- ②測量調査
- ③斜面の地質調査（ボーリング調査）
- ④北側擁壁周辺現況平面図の作成
- ⑤グラウンド現況平面図の作成

#### カ復旧工事の概要

##### ①北側擁壁及び斜面

調査結果により、最も合理的かつ有効である既存の擁壁の外側に新たな擁壁を造り補強する方法をとる。斜面は、コンクリートの吹付とする。

②グラウンド

雨水排水溝の整備、車両通行・駐車エリアの舗装、活動エリアの芝生化を図る。

③その他

高く伸びすぎたヒマラヤスギの伐採と剪定（倒木防止対策）

キ工事予定

①工事業者の選定（入札） (31年4月)

②工事業者との契約 (31年5月)

③着工 (31年5月)

(4) 委員会活動状況

名称	開催回数	主な活動状況
安全推進委員会 (利用者の安全に関する規則)	5	<p>1 利用者の転倒・転落・傷害・誤嚥飲・器物破損・加害行為・交通事故・行方不明等、事故の予防ならびに円滑かつ的確な事後処理を目的に活動しており、「ヒヤリ・ハット報告書」「事故報告書」等の作成・集計・分析を通し、情報を職員間で共有・注意喚起し、事故の再発防止に努めている。</p> <p>2 各種法人行事におけるリスクマネジメントの実施</p> <p>3 事故報告集計資料の様式見直しおよび作成・報告 事故件数 学院29件 デイセンター18件 支援センター14件 計61件</p> <p>4 「ヒヤリ・ハット報告書」の集計・対応 報告件数 学院48件 デイセンター8件 支援センター5件 計61件</p> <p>5 「ヒヤリ・ハット報告書」の活用提言 (各事業所提出50件を目標に定めた)</p> <p>6 「素心会ヒヤリ・ハット集」の作成検討</p> <p>7 法人公用車全車へのドライブレコーダー設置</p>
広報委員会	11	<p>素心会が運営する事業全体に関する情報について、関係者・関係各機関をはじめ広く社会全般に提供し、障害者と福祉現場への理解と協力を求めることを目的に活動している。</p> <p>1 広報誌「そしん」編集、発行 61号 平成30年7月発行 62号 平成30年10月発行 63号 平成31年4月発行に向けて準備 (当初2月発行予定が遅れた) 64号 平成31年6月発行に向けて準備</p> <p>2 素心会ホームページ ・ホームページリニューアル後の修正</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌「そしん」バックナンバー掲載</li> <li>・職員募集ページに求人サイトのバナーを設置</li> <li>・情報公開ページを見やすく整理</li> <li>・トピックスの随時更新</li> </ul> <p>学院の秋のフェスティバル、寿司ランチやデイセンターの災害復旧工事入札公示など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ保守業者より平成 31 年度でホームページ事業から撤退する旨連絡あり。今後について業者を検討中。</li> </ul>																																
<p>研修委員会 (素心会研修規則)</p>	<p>1 0</p>	<p>1 職員の資質、専門性の向上を図るため、研修要項に基づき次の研修を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="638 719 1417 1064"> <thead> <tr> <th>研修の種類</th> <th>対象職種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎研修</td> <td>全職種 1 年目の職員</td> </tr> <tr> <td>実践研修</td> <td>全支援員</td> </tr> <tr> <td>基幹研修</td> <td>リーダー職以上対象</td> </tr> <tr> <td>外部研修（事業所ごと）</td> <td>全職種</td> </tr> <tr> <td>課題別検討会</td> <td>支援員 7 人（ダウン症への支援に関する研究）</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 当年度の研修</p> <p>(1) 基礎研修</p> <table border="1" data-bbox="638 1160 1417 1653"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害の特性と知的障害福祉の歴史</td> <td>平成 30 年 5 月 22 日</td> </tr> <tr> <td>倫理・人権</td> <td>平成 30 年 6 月 18 日</td> </tr> <tr> <td>記録・接遇</td> <td>平成 30 年 7 月 17 日</td> </tr> <tr> <td>介護技術</td> <td>平成 30 年 9 月 3 日</td> </tr> <tr> <td>感染症とてんかん</td> <td>平成 30 年 10 月 9 日</td> </tr> <tr> <td>自閉症</td> <td>平成 30 年 11 月 6 日</td> </tr> <tr> <td>ダウン症・高齢化</td> <td>平成 31 年 1 月 16 日</td> </tr> <tr> <td>リスクマネジメント</td> <td>平成 31 年 2 月 15 日</td> </tr> <tr> <td>制度</td> <td>平成 31 年 3 月 18 日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 実践研修</p> <p>実施日 平成 31 年 3 月 22 日 18 時～20 時</p> <p>場 所 素心学院地域交流室</p> <p>参加者 素心会職員 69 人</p> <p>助言者 大磯町福祉課 杉山氏</p> <p>内 容 KT さんのこれから（素心学院） 相手の立場に立ったコミュニケーションの模索</p>	研修の種類	対象職種	基礎研修	全職種 1 年目の職員	実践研修	全支援員	基幹研修	リーダー職以上対象	外部研修（事業所ごと）	全職種	課題別検討会	支援員 7 人（ダウン症への支援に関する研究）	内容	実施日	知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	平成 30 年 5 月 22 日	倫理・人権	平成 30 年 6 月 18 日	記録・接遇	平成 30 年 7 月 17 日	介護技術	平成 30 年 9 月 3 日	感染症とてんかん	平成 30 年 10 月 9 日	自閉症	平成 30 年 11 月 6 日	ダウン症・高齢化	平成 31 年 1 月 16 日	リスクマネジメント	平成 31 年 2 月 15 日	制度	平成 31 年 3 月 18 日
研修の種類	対象職種																																	
基礎研修	全職種 1 年目の職員																																	
実践研修	全支援員																																	
基幹研修	リーダー職以上対象																																	
外部研修（事業所ごと）	全職種																																	
課題別検討会	支援員 7 人（ダウン症への支援に関する研究）																																	
内容	実施日																																	
知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	平成 30 年 5 月 22 日																																	
倫理・人権	平成 30 年 6 月 18 日																																	
記録・接遇	平成 30 年 7 月 17 日																																	
介護技術	平成 30 年 9 月 3 日																																	
感染症とてんかん	平成 30 年 10 月 9 日																																	
自閉症	平成 30 年 11 月 6 日																																	
ダウン症・高齢化	平成 31 年 1 月 16 日																																	
リスクマネジメント	平成 31 年 2 月 15 日																																	
制度	平成 31 年 3 月 18 日																																	

		<p>(素心デイセンター) 卒業後に向けた支援から得た気づき (地域支援センターそしん)</p> <p>(3) 基幹研修 実施日 平成 31 年 1 月 15 日 場 所 素心学院会議室 参加者 課長 4 人 内 容 行動宣言シートに関する試行的取組</p> <p>(4) 外部研修 事業所ごとに外部研修会への派遣を実施した。実績は各事業所の事業報告による。</p> <p>(5) 課題別研修 平成 27 年度にまとめた「ダウン症検討会報告書」に基づき、視力検査の方法の研究とダウン症の特性・適応障害・退行について職員や保護者に伝えるためリーフレットを作成した。</p>
給食委員会	6	<p>1 委託業者が富士産業株式会社から日京クリエイト株式会社に変わる。一年が経過したが、素心学院・素心デイセンターともに日京クリエイト(株)への評価は非常に高いものがある。 給食業務に関する事項の全般について、給食業務委託仕様書に定めるところに従い実施されているかどうか、当方と受託業者の職員により細部に至るまで検討し、より良質で適切な食事の提供に努めている。主として実施献立、形態食、食材料、提供方法、行事食、嗜好調査、保温食器の必要性、衛生管理等について検討している。</p> <p>2 食物アレルギー（甲殻類アレルギー等）の利用者に対して、調理指示書をもとに徹底した原因食品の除去及び調理作業による誤食、誤配の防止を行った。</p> <p>3 利用者の会にて、日常生活における食事について、正しい理解と望ましい食習慣を養い食に対する感謝と食べる喜びの大切さを理解してもらうためスライド（提供料理の写真）を用いて栄養教育を行っている（月 1 回）。</p> <p>4 見た目にもおいしく、形あるものを食べていただくため、ミキサー食対象者の外出及び行事時にやわらか食（業者より既製品を購入する）を提供した。</p> <p>5 トロミ剤使用者に適したトロミ剤を提供した。</p> <p>6 食事が少ししか食べられない利用者にマクトンオイル（エネルギー強化食品）を使用し、少量でも十分なエネルギーが摂取でき</p>

		<p>るように工夫した。</p> <p>7 イベント食について</p> <p>平成 28 年度から見た目にもおいしく形あるものを食べていただくため、ミキサー食対象者の料理の一部や弁当にやわらか食を取り入れてきたが、平成 29 年度は業者よりやわらか食の既製品を購入し昼食を兼ねた外出にも参加できるようになった。各担当者に当日提供する料理を事前に試食していただき、食材や味付けの確認を行った。</p>
衛生委員会 (労働安全衛生法、就業規則、衛生委員会規則)	会議 2 研修 6	<p>この委員会は、職員の衛生管理に関し調査・研究・審議して衛生活動の推進・徹底を図ることを目的として、次の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断（35 歳未満の者も一般健診で全項目）</li> <li>・インフルエンザ予防接種（事業所負担）</li> <li>・インフルエンザ、ノロウイルス対策（各所に消毒液設置、手洗いうがいマスク等励行、素心学院は空気清浄機を 11 台購入、拡散防止のための汚物処理キットの設置）</li> <li>・各事業所で大磯町消防本部による A E D 研修会を開催。</li> <li>・新人職員を対象に「感染症とてんかん」についての基礎研修を実施。</li> <li>・産業医の指示に基づき、定期健康診断で要精検、要治療の職員に対し、再検査を勧めた結果、ほとんどの職員が受診し、適切な処置をとるに至った。</li> <li>・毎年開催される国際福祉機器展を見学し、特に腰痛対策に役立つ機器等の導入を図った（結果的に今回は導入に至らなかった）。</li> <li>・腰痛対策の一環として理学療法士を講師に招いて、素心学院・素心デイセンターで各 3 回腰痛体操を実施した。</li> <li>・(社福) 福利厚生センター「ソウェルクラブ」に法人負担で全職員（156 人）加入し、福利厚生の充実を図った。</li> <li>・平成 28 年度からメンタルヘルス対策の一環としてストレスチェックが義務化となり、平成 30 年度も全職員を対象に「ストレスチェック」を実施した。</li> </ul> <p>対象者 153 人 回答者 138 人 回答率 90.2%</p> <p>30 年度</p> <p>ストレスが 高い 14.5% やや高い 17.4% 中程度 34.1% 低い 24.7% 評価不能 4.3%</p> <p>29 年度</p> <p>ストレスが 高い 10.8% やや高い 23.1% 中程度 36.9% 低い 24.6% 評価不能 4.6%</p>

環境整備委員会	5	<p>毎月一回「環境整備の日」を設定し職員・利用者として学院内外の清掃を実施した。</p> <p>実施内容</p> <p>5月31日(木) エアコン清掃・下駄箱掃除・各階階段・廊下・駐車場階段修繕</p> <p>6月29日(金) 駐車場の整備 草刈り・ロープの張り直し</p> <p>7月30日(月) 正面玄関・スロープ壁等の清掃</p> <p>8月31日(金) 寮内清掃・各寮浴室</p> <p>9月28日(金) 地域交流室倉庫整理・よしず外し・学院内手すり修繕</p> <p>10月30日(火) 粗大ごみ置き場清掃・白嶺寮裏側草取り・枝払い</p> <p>11月30日(金) 屋上整備(レンガ撤去・土処分)</p> <p>12月26日(水) 大掃除 各寮カーテン・窓拭きその他活動場所等</p> <p>1月・2月 感染症のため中止</p> <p>3月28日(木) ジアイーノ点検(フィルター掃除) 各寮浴室清掃</p> <p>その他</p> <p>6月25・26日グラウンド周り 木の剪定実施</p> <p>大磯シルバー人材センターに依頼した。</p>
芸術活動推進委員会	6	<p>1 各事業所活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸 <ul style="list-style-type: none"> <li>素心デイセンター 毎週木曜日 午前実施</li> <li>地域支援センター 不定期に実施</li> </ul> </li> <li>・絵画等の制作 <ul style="list-style-type: none"> <li>素心学院 絵画：毎月2回 第1・3週 午後実施</li> <li>素心デイセンター 絵画：毎月2回 月曜日 午後実施</li> <li>毎週火曜日 午前実施</li> <li>地域支援センター 毎月1回実施</li> </ul> </li> <li>・書道 <ul style="list-style-type: none"> <li>素心デイセンター 毎月1回 月曜日 午後実施</li> <li>地域支援センター 行事として実施</li> </ul> </li> </ul> <p>2 第27回心創展の開催</p> <p>開催日時：平成31年11月21日(水)～11月25日(日)</p> <p>開催場所：二宮町生涯学習センター ラディアン展示ギャラリー</p> <p>内容：利用者の作品展示(絵画・陶芸・書・オブジェ等)</p>

		<p>来場者数：462名</p> <p>3 作品展への出展（応募）及び見学</p> <p>第5回 湘南 Vivid アート展 開催日時：4月27日（月）～5月6日（日） 開催場所：藤沢市蔵まえギャラリー 内容：利用者の作品展示（絵画） 出展者4名</p> <p>第8回「アウトサイダーアート 2018豊橋 「一枚のはがき」アートコンテスト 募集日時：5月1日～10月31日 発表日時：12月 内容：作品テーマ「私のタカラモノ」はがきもしくははがきサイズの紙に表現する。出展者16名</p> <p>虫窪文化祭 10月27日（土） 開催場所：虫窪公民館 内容：地域の活動にて実施され、利用者の作品を展示 出展者5名</p> <p>第10回 神奈川県障害者文化・芸術祭 相模原大会 開催日時：12月15日（土）～16日（日） 開催場所：相模原市あじさい会館 内容：利用者の作品（陶芸） 出展者9名（デイ利用者）</p>
相互けん制委員会	8	<p>1 人権擁護に関する研修会の実施 実施日 平成31年2月27日 場 所 素心学院地域交流室 参加者 全30人 内 容 アンガーマネジメント 講 師 阿部美樹雄氏（社会福祉法人みずき福祉会理事長）</p> <p>2 職員行動規範の徹底と新規項目の検討 啓発ポスターの作成（毎月）</p> <p>3 法令順守と安全推進強化月間の取り組み 啓発ポスターの作成 各職員会議において呼びかけ</p>
防災対策委員会 （消防法令他）	5	<p>防災備品リスト、ライフライン確保マニュアルに沿った備蓄食料の入れ替え・防災用品等の補充</p> <p>1 防災訓練マニュアルの統一化 2 不審者対応マニュアルに基づく研修 3 大雨・大雪・土砂災害等ガイドライン</p>

## 2 各拠点

### (1) 素心学院（障害者支援施設）

平成30年度は、利用者の加齢に伴う身体的機能低下・体力低下がさらに一層著しく、疾病による入院者・通院者対応に苦慮することとなった。またあわせて昨年度より、疾病にともなう逝去者が複数名発生、積極的な働きかけをおこなったにもかかわらず、欠員補充および受け入れ準備に、追われる一年となった。

そのような中、昨年度採用配属の3名の新任職員を含む職員の献身的な努力により、大きな事故もなく、外出・一泊旅行等の施設行事も利用者の現状に合わせた見直しを実施、例年とおりに提供することができた。

また、昨年度集団感染をみたインフルエンザについて、巷の爆発的流行にもかかわらず、新規に導入した空気清浄器が一定の効果をえられたことと、なにより現場職員の迅速かつ的確な、徹底した感染症対策により、今年度は感染経路の明確な利用者1名のみの罹患で乗り切ることができた。残念ながら8月・11月・1月に、疾病による利用者3名の逝去があったが、2名の新入所者（6月・男性42歳 2月・男性69歳）をむかえ、利用者合計は72名となった。

### (2) 素心デイセンター

#### ア 生活介護

支援センターそしんが二宮に移転した後の作業棟を4月より就労継続支援B型及び生活3班（自閉症支援）の作業室として活用した。本館で活動している生活1班（重度障害者）、生活2班（自主製品制作班）も生活3班の活動場所が変わったことで狭隘さとかねてからの課題は解消された。作業棟に移った生活3班の作業室は利用者の特性に合わせて個室やトイレを増やすなどの環境を整えた。昼食も作業棟で召し上がってもらっている。環境などを整えることによって利用者が穏やかに日中活動を過ごすことができている。ハード面の整備は実施したが、支援内容に関しては提供する作業種の再検討など多くの課題が残っている。

自然災害により崩落した擁壁については安全のために約70メートルのフェンスを作り、グラウンドの三分の一は立ち入り禁止区域とした。そのため駐車スペースが狭くなり、大磯町立岩田記念館前のスロープを5台分駐車スペースとして大磯町から借用している。幸いにも擁壁が再度崩れることはなく、危険区域に利用者が立ち入ることもなかった。

6月に素心学院に異動した退所利用者が1名いた。平成30年度は新規利用者の契約はなかった。今後、新規利用者を増やすことが最重要課題といえる。

#### イ 就労継続支援B型

4月よりスタートした大磯町役場で開催されている大磯町福祉事業所等連絡会主催による福祉ショップ「あおぼと」の設立に参加をした。パンや自主製品を販売している。中でも食パン、塩パンは好評で毎回完売をしている。

擁壁の崩落の影響により洗濯棟が立ち入り禁止となり、素心学院利用者衣類の洗濯作業は縮小を余儀なくされた。洗濯棟内に洗濯機、乾燥機が設置されており洗濯物の洗濯、乾燥はできず、洗濯物の利用者ごとの仕分け、洗濯物のたたみ、居室への返却のみを行った。

大磯町美化センターは民間企業へ委託され実習生の受け入れは平成29年度で終了となった。美化セ

ンターに通っていた実習生は、社会福祉法人恒道会特別養護老人ホームこゆるぎの里(現在はこゆるぎ喜楽園)で清掃作業を行った。社会福祉法人恒道会は、12月に社会福祉法人豊友会に引き継がれ、名称も「こゆるぎ喜楽園」となった。清掃作業の契約は一旦3月で終了し、今後の契約については現在協議中である。

素心学院内で行っているパン作業を素心デイセンターグラウンドにある旧支援センターそしん職員室へ移転し、販路を拡充する計画であったが、土砂災害の影響で現在中断している。パン室の移転及び新規利用者の確保が最重要課題である。

### (3) 地域支援センターそしん

#### ア 共同生活援助(さざんかホーム)

さざんかホームは昭和56年から平成元年までに整備された。当時の利用者像は一般企業等に就労し生活面においても比較的自立度の高い人たちであった。それから30年以上が経過し、利用者の高齢化による病弱者、重度者の増加が顕著である。障害福祉サービスでは重度者の暮らす場として入所施設があるが、年老いてもさざんかホームで暮らしたいという本人たちの希望は固いものがある。また、制度的にも65歳以上の者は介護保険サービスへの移動を最優先にという市町村の意向が強まり、障害福祉サービスにおける住所地特例が介護保険では不適用となること等とも関係し、入所施設へも介護保険施設へも移動しにくい状況を生みだしている。現在もさざんかホームの高齢化、重度化は進み続けている。

そのような中、平成30年度は以下の対応を重点的に行った。

#### ①利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制について

- ・2階居室から1階への移動
- ・歩行困難者への見守り及び移動支援の強化
- ・支援センターにおける入浴サービス
- ・腎臓病食・カロリー制限食・ペースト食・アレルギー除去食への対応
- ・看護師によるインスリン自己注射支援
- ・インフルエンザ等感染症対策の強化(インフルエンザ罹患者3人)

#### ②防災対策

- ・消防法改正への対応  
自動火災報知設備・誘導灯の設置、火災報知設備の設置(さざんかホームB)  
専門業者による消防設備点検

#### ③ホームスタッフの確保・育成、職員研修体制の確立

- ・ホームページ、広告等による積極的な募集(効果は得られていない)
- ・スタッフ会議を利用した職員研修

#### ④建物の老朽化改善について

- ・引き続き移転物件探しを行っているが候補は見つかっていない。高齢者への対応、65歳問題等中期計画において根本的な方向性の確認、早急な整備を実現する

## イ 相談支援

相談支援事業は、引き続き大磯町基幹相談支援事業、二宮町基幹相談支援事業の受託と障害児相談及びサービス等利用計画・障害支援区分認定調査を実施した。重点的な取組として、相談支援体制の整備と人材確保及び育成を挙げ、非常勤職員を1人増員した。

しかしながら相談件数が増大し、相談内容が複雑化する中で相談員数、対応時間、社会資源の不足感が高まっている。このことに我々は引き続き量的、質的な対応力を高められるよう努力しなければならないが、根本的な地域の相談支援体制の在り方について検討する必要性を強く感じている。来年度より地元市町村とともに検討会を設置することとした。

## ウ 児童発達支援（未就学）

初めて一年を通して稼働した年であった。利用数は年度当初の1.5倍まで増加した。情緒の安定を図る個別支援計画の作成を重点取組み事項に挙げ、保護者や併用する保育園等の職員から一定の成果を得ている。この時期の情緒の安定は子どもの将来にわたって重要なテーマと捉えているが、一方で言葉や基本的な生活動作獲得へのニーズは高く、その対応が求められてきている。また、一般的にも年齢によって発達度合いが顕著に異なる時期であることに加え、多様な障害児童を受け入れる中、グループ分け等療育体制の工夫も見えてきた課題である。

給食対応は平成31年度4月から開始することとした。

## エ 放課後等デイサービス（小学1年から高校3年）

初めて単独事業として、一年を通して稼働した年であった。稼働率は高値を維持することができた。単にお預かりや遊びの時間だけにならないよう、生活力の向上及びソーシャルスキルトレーニングを重点課題に挙げ取り組んだ。お茶やおやつの準備・片付け、清掃、洗濯等身の回りへの意識や役割意識を促す取り組み、また農作業や買い物・調理等を通し手段の日常生活動作に関する機会を提供した。放課後等デイサービスは、基本的に一人につき週3回以内の利用かつ下校時間による制約が生じ、また障害状況もまちまちの中での活動設定に難しさがある。次年度も同様の取り組みを発展的に重ねていく。

## オ 居宅介護・移動支援

これまでも居宅介護事業のニーズが少なく、移動支援事業のニーズが高い傾向となっていたが、今年度の居宅介護のサービス提供は1件であった。これは、障害福祉サービスにおける特徴であることに加え、利用者が65歳を境に介護保険事業に移行したことによるものである。今後もこの傾向は続くものと考えられる。

重点事項である業務マニュアルについては整備したが、もう一方の課題である職員の増員には至らなかった。幸い職員は定着しているが、よりニーズに応じていくには、マンパワーの確保・育成・定着は継続的な課題である。

## カ 自立支援協議会

引き続き二宮町・大磯町自立支援協議会事務局を受託した。事業計画のとおり年2回の協議会と4回の部会、2回の研修会を実施した。協議会・部会において、障害福祉計画をめぐる意見交換を実施する中で「移動・外出支援」と「施設外就労・施設外支援」というテーマを中心に課題の共有を図った。施設外

就労については、地域の企業向けに障害者雇用を理解を求めるためのリーフレットを作成した。研修会は、65歳到達後の介護保険への移行に伴って生じている制度上の課題や生活上の影響について「65歳問題」として取り上げた。また、町内の地域の担い手である支援者が互いに実践を振り返るとともに専門職としての資質の向上と連携の深めることを目的にグループスーパービジョンの手法を用いて「事例検討会」も開催した。

## キ 生活介護

初めて一年を通して稼働した年であった。高齢者や重度重複障害者を中心に受け入れる中、事故も無く安全に過ごすことができた。また陶芸・園芸・創作活動、機能低下防止活動、外出、一泊旅行、季節の行事等支援計画（事業計画）に基づく活動を提供することができた。また、実習生を積極的に受け入れ、放課後等デイサービスとも連携し、来年度に5人の新規利用者につなげることもできた。初年度の重点取り組みはほぼ達成できたと捉えているが、利用増、職員確保難の中でこれを継続、発展させていくことが重要である。